

科目名 在宅看護援助論Ⅱ	配当時期 2年次 後期	講義担当者	
時間割表記名 在宅看護援助論Ⅱ	単位数 1単位	田中 裕貴 安永浩子	
	時間数 30 時間(16 回)	中本さおり 隈部直子 (実務経験のある教員)	
事前学習内容			
テキストの該当部分を熟読しておくこと。			
授業目標			
1. 対象に応じた生活支援が実施できる。			
2. 在宅療養の看護過程の展開ができる。			
DPとの関連			
DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる。			
DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。			
DP3. 一人ひとりの多様な価値観や人権を尊重し、倫理観に基づいて看護を実践できる。			
DP4. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割を理解し、多様な場で生活する人々の生活の質の向上のために多職種と連携・協働する意義と方法を理解することができる。			
DP5. 自己を理解し、他者を尊重したうえで、人間関係を構築することができる。			
授業の流れ			
回	学習内容	方法	備考
1	1. 在宅看護における継続看護の実際 1)継続看護と看看連携 2)退院支援の仕組み 3)継続看護における病院で業務に従事する看護師の役割	講義	テキスト①
2	2. 地域で生活する終末期の療養者と家族への支援の実際	講義	テキスト①
3	1)症状マネジメント 2)終末期緩和ケアの実際		資料
4	3)看取りの援助	講義	テキスト②③
5	4)家族へのグリーフケア		資料
6	3. 在宅看護過程の特徴	講義	テキスト①
7	1)情報収集とアセスメント	シミュレーション	資料
8	①身体状況、ADL、IADL ②住環境 ③社会資源 ④家族の介護力 ⑤経済力 2)目標の設定・計画 3)実施・評価		8回目は45分

9 10 11 12 13 14	4. 地域で生活する慢性閉塞性肺疾患で在宅酸素療法をしている療養者と家族への支援の実際 事例展開 1)情報収集(初回訪問実施) 2)アセスメント 3)看護課題(看護問題)の明確化 4)看護目標設定 5)関連図による全体像の把握 6)在宅看護計画の立案 7)実施と評価		
15	5. 小児の療養者に対する在宅看護の実際 1)在宅療養継続のための療養者の健康危機管理 2)療養者の自立支援と QOL 維持・向上のための在宅療養支援 3)在宅療養継続のための家族支援	講義	テキスト① 資料
16	筆記試験(45分)	試験(筆記)	
受講上の注意			評価方法 筆記試験 レポート
使用するテキスト ①系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 医学書院 ③看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 メヂカルフレンド社 ④系統看護学講座 専門分野 小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論, 医学書院 参考文献 ①強みと弱みからみた在宅看護過程, 医学書院 ②国民衛生の動向, 医療保健福祉ガイド, 福祉・医療関係相談支援マニュアル			